

【本時で目指す子どもの姿】

町探検で発見したものや音を表す言葉に付けたリズムを友だちと重ねて表現したり、聴いたりする中で、リズムの組み合わせを変えていろいろな重ね方を試しながら、お気に入りのリズムの重なりを見付けようとする姿。

【具体的な手立て】

前時までに自分でつくった言葉のリズムを同じグループの友だちがつくった言葉のリズムと順番に重ねていく場を設定し、いろいろな重ね方を試しながら、リズムの様々な重なりのおもしろさを感じられるようにする。

1 題材名 リズムをつくってかさねて歌おう ～音楽づくり～**2 題材のねらい**

自分たちが町探検で見つけたものや音から言葉を選び、様々なリズムを付けて表現する活動に関心をもち、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みを手がかりにして音楽をつくっていくことのおもしろさを感じ取ったり、リズムの重なりや掛け合いのおもしろさに気付いたりしながら曲をつくることができる。

3 題材の構想

(1) 本学級の子どもたちは、リズム遊びが大好きである。2年生のこれまでの活動では、4分音符と4分休符を組み合わせて様々なリズムをつくる活動をした。1年生の時に「たん たん たん うん」と表していたリズムが「」」」と表せることを知り、4分音符と4分休符のカードを並べていろいろなリズムをつくることできるようになった。また、並んだカードを見ながらリズムを表現できるようになってきている。以下に示すふりかえりは、題材「リズムあそびをしよう」で、4分音符と4分休符のカードを4枚組み合わせてつくったリズムを、グループでつなげて表現した時間の後に書かれたものである。

今日、音がくをしたよ。4分音符のカードと4分休符のカードを4まいえらんで、リズムをつくったよ。わたしはさいしょ、「たん たん うん たん」をつくっていたけど、ちょっとかえて「うん たん たん たん」にしてみたよ。グループでつなげてみた時、みんなのリズムがぜんぶちがっておもしろかったです。ほかのグループのもやってみたら、むずかしいのがあったよ。でも、もっとむずかしいリズムもつくってみたい。あと、8まいぜんぶつかってリズムをつくってみたいです。(児童A)

児童Aのように、もっと難しいリズムを音符や休符で表してみたい、もっと難しいリズムも音符や休符を見ただけで表現できるようになりたいという追求意欲をもって活動に取り組もうとする姿が見られたことから、8分音符や8分休符を取り入れたリズムの表現もしてきた。さらに、つくったリズムに曜日や数などの言葉を付けて表現する遊びを自分たちで考え、リズム遊びを楽しんできている。音楽をつくっていこう、できた音楽をつなげていこう、という意欲のある子どもたちであり、みんなで一斉に同じリズムを表現することの楽しさを十分に感じ取ってきている子どもたちが、表現への追求意欲に対して満足のできるような音楽づくりの活動

に取り組むことにより、低学年の段階で音楽をつくっていくことの喜びやおもしろさといったものを感じ取っていく姿を目指したい。

(2)本題材は、学習指導要領のA表現(3)イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。」に関連させながら学習を進める。

題材としては、生活科の内容と関連させ、町探検で行った■■■■のお店で感じ取った音や様子をもとに音楽づくりをする。本校に隣接する■■■■は、パン屋さんや醤油屋さん、蕎麦屋さんなど子どもたちにとって音や様子を想起させ、擬音語や擬態語によるリズムづくりの素材となるお店が数多くある。同じお店に行った仲間と共通体験をもとに音楽をつくり、できた音楽をお店の人に聞いてもらうという活動の目的意識の醸成へとつなげられる。また、二つの異なるリズムを重ねるおもしろさを感じ取るためには、一人一人が拍の流れにのって表現することを自然に求められるようになる。リズムを重ねて表現する活動を通して、拍感を育てていく機会とすることもできるであろう。以上のことから、音の重なりのある音楽づくりを、石橋町のお店を題材として取り組みたいと考えた。

音楽づくりの場面では、自分の体験から選んだ言葉に自分なりのつくり方でリズムを付けている姿を「自己との対話」、友だちのつくったリズムを聴いて自分のつくったリズムとの違いやよさを感じ取ったり、友だちとリズムを重ねるといった活動を通して感じ取ったことを伝えながらグループで試行錯誤したりしている姿を「他者との対話」、つくったリズムをどの組み合わせで重ねると良いかを、リズムのいろいろな重なりを表現したり聴いたりしながら見付けていく姿を「作品との対話」とする。こうしてより自分の思いに沿った音楽をつくっていこう、という問いをもつことによって自らの音楽表現を高めていく姿を期待したい。

そのためにまず、指導者によるモデル演奏を聴かせることを出会いとして活動をスタートさせる。出来上がった音楽のイメージをもつことができるようにすることでゴールが見えるようにするとともに、体験と音楽づくりとをつなげ、どのようにして音楽をつくっていくと良いのか、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みを示しながらイメージを膨らませるようにする。その後、4拍2小節の枠の中で、選んだ言葉に一人一人がリズムを付けていく活動を設定する。リズムをつくる際の手助けになるように音符と休符のカードを用意しておき、並べ替えながら試せるようにしたり、自分なりの表記でつくった曲を残せるように、ワークシートを用意したりする。

本時では、一人一人がつくった言葉のリズムをグループの友だちと様々な組み合わせで重ねる活動を設定し、いろいろな重なりの中からお気に入りの重ね方を見付けられるようにする。二つのリズムを重ねて表現したり、聴いたりして感じ取ったことをグループの仲間と共有し、友だちとのかかわりの中で音楽づくりの試行錯誤を続けられるようにしたい。その際の支援として、どのリズムの重ね方が気に入ったのかをワークシートに書くことで、お店の音楽に入れるリズムの重ね方を決める時の手助けになるようにする。そして、たくさんの重ね方の中からグループで選んだお気に入りのリズムの重ね方をに入れて、モデルとなる音楽の仕組みを手がかりにしながら、一人一人がつくった言葉のリズムが一つの音楽につながっていく楽しさを感じられるようにする。つくった音楽については、録音して自分たちで聴けるようにしたり、グループ同士で曲を聴き合ってよさや違いを感じ取っていったりすることで、自分なりに感じたお店の様子を音楽に表現できたことの喜びを感じられるようにしたい。出来上がったお店の音楽は、生活科の学習の中でお店の人に披露する機会を設け、子どもたちが自分たちの音楽づくりの価値を実感できる場ともなるようにしたいと考えている。

4 展開計画（全6時間 本時3／6）

次	時	主な学習と具体的な学習・内容	◇追求する子どもの姿
1	1 2	○リズムが重なる音楽と出会う。 ・モデルとなる、教師がつくったあるお店の様子を表す歌の演奏を聴く。 ・どのように音楽をつくっていくのかを知る。 ○自分の選んだ言葉にリズムを付ける。 ・町探検で見つけたものや音から言葉を選んで、4拍2小節のリズムにのせて表現する。 ・グループの友だちと聴き合う。	◇モデルとなる音楽からお店の様子を感じ取ったり、問いと答えや反復などの音楽の仕組みを見付けたりして、自分たちの音楽づくりにいかそうとしている。 ◇町探検で見付けたり耳にしたりしたもののや音を表す言葉に、既習の音符や休符を手がかりにしながら、自分でいろいろなリズムを付けようとしている。
2	③・4	○リズムの重なりを楽しみながら、いろいろな重ね方を試してみる。 ・つくったリズムを友だちのつくったリズムと重ねて表現して、様々な重なりを楽しむ。 ・友だちとリズムを重ねたり、聴いたりしながらお気に入りの重ね方を見付けていく。	◇モデルの歌のように、自分のつくったリズムと友だちのつくったリズムを重ねながら楽しんでいる。 ◇リズムのいろいろな重ね方を感じ取り、そのおもしろさや気に入った重ね方を見付けている。
3	6・7	○ペアで重ねたリズムをグループでつなげて、お店の音楽をつくる。 ・どの組み合わせで音楽をつくるのかを決めて、グループで練習する。 ・つくったお店の音楽を録音して聴いたり、お互いに聴き合ったりする。 ・グループでつくったお店の音楽を発表する。	◇前時までに見つけたお気に入りの重ね方を出し合い、どのリズムを重ねるかをグループで試しながら表現している。

5 本時の学習

(1) ねらい

自分のリズムと友だちのリズムとを重ねて表現したり、他の友だちのリズムの重なりを聴いたりすることで、いろいろなリズムの重ね方を試しながらお気に入りの重ね方を見付けていく。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
-------------	-------------

1. 「リズムカード」でリズム遊びをする。
- ・交代で出てきてつながっているみたい。
 - ・一緒に歌うところがあると安心するな。

・カードを組み合わせてつくった2つのリズムを重ねて表現することで、リズムが重なるおもしろさを共有する。

2. 前時を振り返り、本時のめあてをつくる。
- ・前の時間につくったリズムを重ねたら、どうなるのかやってみたいな。

・前時までにつくったリズムを重ねる活動を確認し、本時のめあてにつなげて意欲を高めるようにする。

いろいろなかさね方をためして、お気に入りのかさねかたを見つけよう

3. グループの中でペアをつくり、順番にリズムを重ねて表現したり、聴いたりしながら、気付いたことや感じたことをワークシートに書き、グループで共有する。
- ・ぼくとBさんのリズムを重ねると、おいかっこみたいでいいぞ。
 - ・CさんとDさんのリズムはほとんど同じだから、ちがうリズムと重ねた方がいいかもしれないな。

・グループの中で組み合わせを決めて、順番に重ねていく活動を設定することで、グループ内でいろいろなリズムの重ね方を試すことができるようにする。

・ワークシートに誰と誰のリズムを重ねたのか、重ねたり聴いたりして気付いたことを記録することで、様々なリズムの重ね方を試して感じたことを、後の重ねるリズムを選ぶ活動の時にも思い出せるようにする。

・リズムを重ねて気付いたことを具体的に言葉にしてグループで共有するようにし、感じ取ったことよさを教師が価値付けることで、子どもの意欲につなげる。

4. 本時で見つけたお気に入りの重ね方を発表し、どのようなところが気に入ったのか伝え合う。

・友だちが選んだお気に入りのリズムの重なりを聴くことで、グループでは気付かなかったおもしろさを感じ、もっとやってみたいという追求意欲につなげる。

- ・EさんとFさんのリズムを重ねたら、交代で出てくるところと、いっしょになるところがあっていいなと思ったのでえらびました。

・お気に入りに選んだ理由も全体で共有することで、様々なリズムの重なり楽しさの感じ方を価値付けたい。

【評価の観点（音楽表現の創意工夫）】

二つのリズムを重ねて表現したり、聴いたりすることで、いろいろなリズムの重なりを感じ取りながら、お気に入りの重ね方を見つけている。

（評価方法：観察・つぶやき・ワークシート）

5. 本時の学習を振り返る。
- ・いろいろなリズムがあったから、重なりもいろいろで、おもしろかったです。
 - ・ほかのグループのリズムの重なりを聞いてみて、自分たちのグループにはないリズムを重ねたらこんなふうに聞こえるんだなって分かってよかったです。
 - ・今日のペアの中にお気に入りの重なりを見つけたけど、まだ重ねてないリズムの中にもっとおもしろいのあるかもしれないから、早くためしてみたいです。

・いろいろなリズムの重なりのおもしろさを共有できたことを喜びながら、次時は、まだ試していない重ね方を表現していくことを伝え、子どもの追求意欲につなげる。